



さゆりっ子

「楽しい」がつながっていく(2)



「お預かりでの一コマ」

YAさん:みちよ先生に教えてもらったから手裏剣折れるよ。

Iさん、YZさん:わたしもやる～。

YAさんを真ん中にして、折り紙講座が始まったのは、帰りのお預かりの時。

「まずはこうして。」「半分にするんだね。」

「待ってよ。」

学年、クラスを越えて自ずと子どもたちの楽しい時間が始まりました。

「やっとすらいむができる!」

かんなさんとの合同すらいむ作り。

すらいむに慣れているかんなさんが思いきり触ったり、伸ばしたりするのを見て、すずらんさんも真似をしてやってみる姿が見られました。

Tさん:みて! メタモンみたい。

ポケモンに例えて大喜びですらいむを手にして遊び込んでいました。



「思ってもいない変化!」

水鉄砲で遊んでいたIさん。偶然にコンクリートの柱に水がかかると柱の色が変わった。「みて! みて!」とお友だちに伝えていました。そんなIさんを見ていた女の子たち。「砂にもお絵描きできるんじゃない?」と地面に、向かって水鉄砲を使い始めた。何度もお絵描きするうちに最後には水たまりができてきた。「私たちの水たまりができた!」と次々と起きる変化に大はしゃぎ。



「自分のマークだ!」

てんとう虫を見つけたTさんが「てんとうむしマーク」のKさんにあげようと思いつきました。

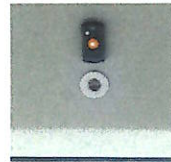
虫に触ることが苦手なKさんも「もってかえる! (おかあさんに見せたい)」とてんとう虫を手にとって大事そうに握りしめていました。

お友だちのマークに気づき、渡してあげたTさんのやさしさに思わず手を差し出したKさんからうれしさが伝わってきます。



<園バスに「置き去り防止装置」がつけました>

車内監視センサー2台、及び後部座席上部に確認押しボタンがつけました。これで一層、安全性は高まりましたが、一番の基本である“目視“による安全確認を今後もしっかりと継続していきたいと思いません。



「第1回鈴の音会」

- ・体育教室に通っている。先生が鉄棒できましたという報告をしてくれたことが最近嬉しかった。
- ・先生が子どもに合わせてくれ、対応を考えてくれたことに対して安心した。
- ・今までダンスもしなかった子が、踊ってくれるようになり、自分の表現の仕方が広がったように感じる。子どものペースに合わせて接してくれる先生に感謝。
- ・4月～どんぐりに通室。いろいろな活動に触れ、興味が広がってきている。おうちでも活かしている姿が嬉しい。
- ・元気に通えていることが嬉しい。園のことはあまり話さないが、ぼろっと出るお話が嬉しい。ホームページや写真配信で子どもたちの様子も伝わってくる。この頃の様子をお話いただきましたが、生き生きとした子どもの姿が目につかび、たくさん元気をいただきました。毎回この時間でお聞きするお話をとても楽しみにしています。また、園への要望等には今後対応していきたいと思いません。

ひとり一人の小宇宙 (7/10)

「子どもにはひとり一人の『小宇宙』が存在している。」(piaget, I.)

難しい説明がなくともなんとなく、「そうだよな。」とうなずいてしまう。子どもの姿をみるとみんな宇宙人?に思えるくらいにユニークである。

4歳の孫がおかあさんといっしょにお風呂に入るようになってから、お風呂を出ると一足先に一人で二階まで上がってくるのが日課になった。二階には私が待っているのだが、先日階段を上ったところに大きな虫がいた。孫にとっては“恐怖の存在“。「虫いる～」と大声を出しその時は事なきを得たが、その日以来、お風呂上りの階段を上ってくる度に「虫、いない?」が合言葉になっている。お風呂から二階までが孫にとってはちょっとした冒険になっているのかなと思う。



「何、言ってるの。虫なんかこわくないよ。」と片付けてしまうのではなく、「子どもの生きている世界」に付き合うのも楽しいことである。

自己肯定感 (7/12)

先日「自己肯定感」について改めて考える研修の機会があった。

「自己肯定感」を育てる=「自分を好きな子ども」を育てる…自己肯定感という言葉を知ると「自分のプラス面を自覚していく」といったイメージを持っていた。

「思い通りにいかない時や自分の状況は受け入れられない」ときも自分を大切に思う。そんなはずじゃない、本来の自分ではないと思うこともあるかも知れないが最終的には「これも自分(の一部)」と認めていけるのが「自己肯定感」であると話された。

では、「自己肯定感」を育てるにつながるのは「認めること」。子どもがクヨクヨしている、悲しい気持ちでいる、うまくできないでへこんでいる、どんな時も「自分」。まわりの大人は「もっとがんばれ!」と叱咤激励するのではなく、「今、こんな気持ちなんだね。」「今、何ができるかな。」と一緒に考えてみる。「褒めるよりも認める、気持ちを共有する」子どもも大人と同じ。いつも気を付けていることであるが、つい忘れてしまう。